

## 臨床歩行分析研究会誌 査読結果

査読完了年月日	2021年2月15日
総合評価	採録 A-1 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A-2</span>
	条件付採録 B-1
	却下 C-1 C-2 C-3 C4
項目別評価	新規性が <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">高い</span> 普通 低い
	有用性が <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">高い</span> 普通 低い
	客観性が <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">高い</span> 普通 低い
著者へのコメント	<p>重心動揺や心拍変動などの分析にはフラクタル解析を行うことが最近注目されてきているように思いますが、実際に論文として出ている数はあまり多くはありません。本論文の脊柱後弯角度と COP に関する姿勢制御について、興味深く拝見しました。非常に新規性・有用性が高い内容であり、今後の発展性に富んだ内容ではないかと思われます。また論文内容データ処理・考察など適切に行われており、簡潔・明瞭に述べられているのではないかと思います。</p> <p>修正箇所および気になった点を以下に記載します。</p> <p>修正箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2.2. 方法において、床反力計の型番の記載が必要です。</li> </ul> <p>気になった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2.2. 方法において「右脚が接地し、床反力が出現した地点を歩行停止と規定した」と述べられていますが、これは文字通り右脚が接地した瞬間（床反力がわずかにでも出現した瞬間）でしょうか。</li> <li>あるいは「右脚が接地して床反力が安定する瞬間」でしょうか。</li> </ul> <p>動作停止動作に関する本論文の趣旨からいえば、そのまま前者の解釈だと思われますが、その解釈でよろしいでしょうか。</p>